

第1回 名張市地域公共交通会議 連携協議会 議事概要

日時 平成29年11月16日(木)

午後2時00分より

場所 名張市役所 庁議室

出席者：(敬称略)

(1) 委員

福本 房生 (ほっとバス錦運営審議会 会長)
村山 勝司 (薦原コミュニティバス運営委員会 会長)
前川 尚三 (緑が丘コミュニティバス運営協議会 会長)
室谷 芳彦 (美旗地域コミュニティバス運営審議会 会長)
山崎 和明 (国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会 会長)
吉田 好文 (赤目まちづくり委員会コミュニティバス推進協議会)
仲 範和 (三重交通株式会社伊賀営業所 所長)
深山 桂右 (深山運送有限会社 名張エフバス営業所 所長)
川瀬 和也 (株式会社メイハン 常務取締役)
谷本 浩司 (名張市都市整備部 部長)

(2) オブザーバー

小出 和仁 (国土交通省中部運輸局三重運輸支局 主席運輸企画専門官)
中平 恭之 (近畿大学工業高等専門学校 准教授)
滝本 晋 (ほっとバス錦運営審議会)
松並 昭男 (薦原コミュニティバス運営委員会)
島田 光夫 (美旗地域コミュニティバス運営審議会)
中川 康司 (三重交通株式会社 伊賀営業所 営業係長)
津田 大輔 (三重交通株式会社 伊賀営業所)

(3) 事務局

都市整備部都市計画室 4名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 役員を選任について

会長：室谷 芳彦 (美旗地域コミュニティバス運営審議会 会長)
副会長：深山 桂右 (深山運送有限会社 名張エフバス営業所 所長)
副会長：谷本 浩司 (名張市都市整備部 部長)

(2) 美旗地域コミュニティバス「はたっこ号」新設運行系統に係る実証運行結果について

(美旗地域コミュニティバス運営審議会 島田氏による説明)

会長 何かご質問があればお受けいたします。当初は、空気を積んで走っていると言われ

ていましたが、継続は力なりで、バスが目に見えると乗ってみようかと思うようになったということだと思います。美旗地域は、高齢者の方も多いですが、中間層も多く、コミュニティバスは高齢者の中でも若い方が使われます。年をとってバスにも乗ることができない高齢者は、集落部に多いと思います。そういう意味では美旗はこの先何年間かは上り調子でいくと思います。

障害者手帳をお持ちの方の数はここには載っていませんか。

委員 ここには載っていませんが、現在1か月で100名前後です。

事務局 9月までの数は、今日の資料に付けてございます。

会長 美旗は福祉施設が多く、ご利用される割合も高いです。障害をもっている方が無料バスとして使っていただけるのは、コミュニティバス運行の大きな目的の1つですから、それがうまく稼働していると考えています。

事務局 はたっこ号の新設系統の実証運行結果といたしまして、利用者数も増えておりますし、各停留所も多い少ないはありながらもご利用になられているということで、評価としましては、現状のとおり運行いただき必要に応じて見直しを行っていただくということでよろしいでしょうか。

会長 よろしいですね。それでは、続きまして、上半期のコミュニティバス運行状況報告及び評価について、事務局から報告をお願いします。

(3) 上半期コミュニティバス運行状況報告及び評価について

(事務局より資料に基づき説明)

会長 これはそれぞれ目を通してもらうのですか。今ナッキー号についての説明がありましたが、これは各協議会さんで説明してもらうわけではないですね。

事務局 この結果について考えるところをお聞きしたいと思います。

会長 それでは、あららぎ号さんお願いいたします。

委員 あららぎ号についてですが、平成25年に小学校が廃校になり利用者が減りまして、29年度の4月～9月まで月平均170名程度の利用があります。国津地域はかなり人口も少ないですが、車に乗れない方等の利用があることから、現状の運行を維持しているところです。

会長 バスがなくなると困りますよね。難しいところですね。

委員 そうです。この約170名の利用がありますので、このまま何とか維持をしていきたいと思っています。

会長 続きまして、ほっとバス錦さんお願いいたします。

委員 ご覧のとおり、極端に利用者が減ってきております。障害者手帳をお持ちの方の利用が500名ほどありますので、それを加味した数字にはなっているわけですが、やはり錦生地区も過疎化が進んでまいりましたのと、先程会長がおっしゃったように今までバスに乗っていた方が高齢化の進展によって乗れなくなり、一方でこれまで自動車を利用している高齢者がバス利用にシフトしていただくことがうまくいっていないと思います。利用者を増やすという点で、いろいろ企画もしているのですが、絶対数に大きく寄与で

きるまでには至っておりません。運行協議会の部会でこれから独自の方法を実践していきたいと思います。利用者の減少の割に料金があまり減っていないのは、去年の10月から運賃改正をいたしまして、最低運賃を100円から200円に引き上げさせていただいたことから、人数は減っているのですが運賃収入は何とかカバーできているところですよ。より地域の皆さんに1人でも乗っていただき、収支のバランスがとれるよう頑張っていく所存です。

会 長 この数字を見ていると大変だと思います。例えば、観光と連携して、このバスに乗ってイベントに参加してこのバスに乗って帰ってくるというような観光ルートはありませんか。

委 員 そういった取組もいろいろ実施しており、先日もフォトウォークということでほっとバスを利用して赤目滝を散策してもらうイベントを開催し、16名程度の方に乗車いただきました。今度は、滝谷の菖蒲園のシーズンにはそちらで降りていただいてということも企画しております。

会 長 頑張ってくださいようよろしくお願いいたします。続きまして、コモコモ号さん、よろしくお願いいたします。

委 員 ご覧いただきますと、平成25年から少し増加していますが、これはルートを変更したというところで増えておりますが、集落部と団地の差がありまして、集落部はほとんど乗車人員がないのに対して、さつき台の方に多く乗っていただいています。それと、運行が曜日によって違いまして、これは経費の上限の中で運行しておりますので、これ以上地域づくり組織あるいは市からの補てんがないというぎりぎり目いっぱい運行しているという状況ですので、利用者数は若干伸びてはいますが、これ以上の伸びは厳しいかと思えます。また、いろんな意味で収入が増えれば、増便等ができると考えており、経費を少しでも援助したいということで、路線上の各企業に3年ほど前から協賛金をいただいています。これからも企業さんに協賛金をお願いし、増便できればと考えているところです。

会 長 はたっこ号では、空気を運んでいると言われようが、月曜日から金曜日まで時刻表どおり運行しています。そうすると乗ってくれるようになります。コモコモ号は週に何回とか1日に何回とかいうコースがありますよね。それが逆効果になって経費の負担になっているのではないかと思います。

委 員 1日のすべての便を2便にでもできればもう少しでも乗ってもらえると思いますが、経費がかなりかかってしまいます。

会 長 先程はたっこ号の事務局の話もありましたが、15人ほど人を集めてこのバスに乗って何時に桔梗が丘に行ってそこから何かをして帰りもこのバスで帰ってくるというのが定着してくれば、決まった数乗ってくるようになります。そのために病院との接続はほしいですね。それも大きな課題かなと思います。それではみどり号さんお願いします。

委 員 みどり号はここに載っているとおりですが、今年の上半期は少し利用者が増えています。1日当たりの平均は落ち着いてきたかなというところですよ。増便してほしい、土日も走らせてほしいなどいろいろ要望はあるのですが、経費的な面からすると厳しいところで

す。そこで、どうやって収入を確保するかといいますと、それは利用者を増やすしかないですよ。寄付してくれる企業があればいいのですが、周りにはありませんので、どう利用者を増やそうかといった場合に、現在、利用者は高齢者の女性がほとんどですが、男性にも乗ってほしいということで、今年の6月に高齢者向けのバスの乗り方教室を開催しました。来てくれた人は結構喜んでいただきまして、それで少し増えたのかなと思います。つい先日10月末にバスの乗り方教室を蔵持小学校の2年生を対象に授業の一環として開催しました。子どもをターゲットにするのは、将来歳を重ねて大人になっていくので、そこで子どものファンをつくっておけば将来的に乗ってくれるのではないかと、さらに現在運転手不足ですので、そこで運転するのが楽しそうと思ってもらって、それに貢献できたらとも思っています。この教室には経費がかかりますが、多少お金をかけても、利用者を増やす算段をいろいろ考えていき、4便から5便に増便したいと思ひ頑張っております。

会 長 横ばいで安定していますね。続きましてはたっこ号さんお願いします。

委 員 利用されているお客さんが、上半期だけで500名増えていますので、かなり今年度は増えるのではないかと予想しております。現在、できるかどうかは別といたしまして、小学校に行くのに不便な地域がございまして、学校への通学距離が長く、かつ交通事情が危険な状況となっています。教育委員会などとも話を詰めなければいけません、例えば、この地区の児童は登校時だけでもはたっこ号に乗ってもらうという協力ができないかということを経営審議会での今後の検討課題としてとらえています。

会 長 実はそこで今年交通事故がおきました。被害者は中学生だったのですが、その道路は通勤時の抜け道になっていて、狭いところを車がビュンビュン通ります。カーブの向こうが坂になっていて見にくく、スピードを出したまま突っ込んでくるということが毎日のようにあるのですが、そこを小学生が約50名通ります。そこで先々月に自動車と通学中の自転車の接触事故が起きてしまいました。けがは大したことはなかったのですが、今後の安全対策のため行政にお願いをして道路の拡幅に着手をしていただいております。それが完了するまではたっこ号を使えないかという話を進めているところです。

ありがとうございます。上半期のバスの運行状況の報告を各運行協議会からいただきましたけれども、これについてご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

事務局 ここで各路線についてご意見をいただき、それを連携協議会の評価としてまとめさせていただきます。

会 長 そうしましたら、私たち連携協議会としての評価を、まずはナッキー号について何かご意見等ございましたらお願いします。ナッキー号は比較的安定した利用があり、現状を維持しつつ必要に応じて見直し等を実施していくということでよろしいかと思いますが、皆さんいかがですか。特別にご意見ないようでしたらナッキー号についてはそのようお願いします。

それからあららぎ号ですね。あららぎ号の運行主体から、自己評価をお願いします。

事務局 運行主体の自己評価につきましては、事前にこの様式に記入いただいて本日ご提示するというのが本来ですが、事務の都合上、今回はこのようなかたちになってしまい申し訳

ございませんでした。

委員 あららぎ号は、高齢者や障害者など地域の車を運転できない方の重要な移動手段であるので、現状維持で運行を継続していきたいと思います。

会長 自己評価としては、現状維持で運行を継続していきたいということです。協議会の評価としましても、利用者が減少しているからといって地域の移動手段であるあららぎ号の運行を止めることはできない、継続的に運行していくことが必要であると考えます。続きまして、ほっとバス錦さんお願いします。

委員 本当に利用者が減少しているということで、我々役員としても危機感を持っております。今後の運行見直し等を検討していくため、地域全体及び宇陀市の運行地区にアンケートをとって、現在、近大高専で集計・分析いただいております。収支的には1日だいたい25人ご利用いただければいいわけですが、現在のご利用は11人くらいですので、1人の方が都合で乗らなくなれば金額的に響いてきます。イベントでこの地域に来てもらった人のガイドをしたり、また、一部地区ではグループでバスを利用して、市街地へ来て買い物をしてもらおうという取組もしているのですが、総体的に運賃収入が上昇するところまで至っていないので、さらに検討したいと思います。

会長 自己評価については、運賃収入の確保のため、イベント等の企画をより推進していくということです。協議会としての評価は、現在集計中のアンケート調査によって地域のニーズを把握いただくとともに、従来から取り組んでいただいている各種イベントの企画等についても継続して推進いただくということをお願いいたします。結局は、利用者を増やす方法を考えることが重要になります。

委員 そうですね。何人かの方がいちじくやみかんなど家で育てたものをバスで配ってくれたり、いろんな工夫はしています。道路に花を植えて景観をよくしたりなど意見は出ていて、いくつかは実行しているものもあるのですが、なかなか利用者数の増加には至っていません。しかしながら、先ほど言われたように、定期的にやっていけばロコミなどで行った方が誰かに声をかけてくれるということもあるかもしれませんので、継続的に頑張っていきたいと思います。

会長 続きまして、コモコモ号さんお願いします。

委員 先ほど申し上げたのが、自己評価になります。それにプラスして申し上げますと、一昨年だったと思いますが、小学生にコモコモ号を題材にした写生大会をしていただいて、その絵を大きくして車内に掲示をしたり、書いた絵すべてをバス停に掲示をして、父母・住民にコモコモ号の啓発に努めました。また、まだ学校と話を詰めていないのですが、今年も写生大会を実施したいと考えており、子どもの絵を掲示して、地区住民に絵を見がてらバスに乗ってもらえるよう、運行時刻を周知啓発して利用促進を図りたいと思います。

会長 協議会の評価としましては、地域内の住宅地と集落部の利用実態の違いを把握したうえで、効果的な運行ルートや時刻設定等のサービス水準について検討いただきたいと思います。協議会としましても、自己評価を尊重し、できる限りバックアップしていきたいと考えています。

続きまして、みどり号さんお願いします。

委員 利用者を増やす手法として、ベースを上げるのと、イベントで一時的に上げる2種類があると思います。先ほど言った乗り方教室というのはベースを上げる方法だと思います。それと、運行している地域以外の地区から客を呼ぶという方法もあると思います。バスを活用していろいろなイベントも実施しており、春は食事会、秋はハイキングや観劇会などを開催しています。蔵持小学校の児童にバスの絵を描いてもらいまして、バス停に展示するという取組も実施しており、現在掲示しているものは去年のものですが、今年も描いてもらう予定であり、貼り替えたいと考えています。そうすると、親子で見に行くと、そのままバスに乗ってもらえるということもあります。便数を増やしてほしいという強い要望がありますので、いろいろな試行錯誤をしながら、とにかく運賃収入を確保して便数を増やしたいと考えています。

会長 小学生に対する啓発や、各種イベントの開催など、今後もそれを推進していくということですね。協議会の評価としましては、非常に良い取組であると考えます。各運行協議会にもそういう考え方を持っていて、場合によってはモデルとして協議会で視察させていただき、よいところは真似をすればいいと思います。真似から始まって、自分のものにするというのもありかと思います。

最後にはたっこ号さんお願いします。

オブザーバー 今現在実証運行の検証中ですが、自己評価としましては、予想を上回る成果が出ていると感じます。1年間程度は様子を見ないとわからない面もあると思いますので、引き続き様子を見ていきたいと思います。

会長 実績がかなり上がってまいりまして、自己評価としては今回の運行系統の新設はうまくいっていると考えています。協議会の評価としましては、今後も定期的にニーズ把握に努め、見直し、改善等に努めていただきたいと思いますということです。

この案件につきましては、事前に自己評価をいただいておりますべきところであり、次回からはそのようにさせていただきたいと思っておりますのでご了承ください。ありがとうございました。

(3) その他

- ・はたっこ号乗込み調査の実施について
(事務局より資料をもとに説明)

会長 今後乗込み調査を随時やっていくということですか。

事務局 そうですね。以前から評価表をお示しさせていただいておりますが、1年間の運行を終えた時点で年間の評価をいただくことになっており、その評価項目の中にこういった乗込みを実施しないと記入できない項目もございます。また、こういった乗込み調査で利用者のご意見や利用実態を知っていただくいい機会にもなりますので、乗込み調査等も実施していただきたいと思います。

会長 そうですね。乗込み調査を実施することで利用実態が目に見えてきますから、よろしくをお願いします。

- 事務局 地域の皆さんだけですべて実施するには大変なところもあろうかと思っておりますので、私どもがお手伝いさせていただけたらと考えています。
- 会長 近大高専の研究室のチームは協力していただけますか。
- オブザーバー 6路線のすべてについて近大高専で対応するのは難しい部分もあります。今回のデータも今入力して精査しているところなので、それが全路線になると私一人ではさすがに難しいですが、それでもできる限りはご協力できたらと思います。
- 事務局 今回はこういった項目で実施しましたが、もっと簡易な項目でも構いませんし、評価に必要な項目に絞っていただくなどしていただければと思います。
- 委員 前回、乗込み調査のやり方については事務局の方で検討するというので、今回これを提示いただいたわけですが、これはいつから実施するのですか。
- 事務局 毎年1年の運行を終えていただいた際に、自己評価をしていただくこととなりますので、その際にこういった乗込み調査をしていただいて、評価につなげてもらうということを考えています。今回は項目が多いのですが、もう少し項目を絞っていただくなどという検討もしていきたいと思っております。
- 前回お示しさせていただいた年間のスケジュールで言いますと、4月に新しく年度が替わったタイミングで一度乗込み調査をお願いしたいというかたちです。この調査をもとに、それぞれ個別に自己評価をいただき、連携協議会の評価を加え、5、6月に全体会議に報告するというスケジュールとなります。
- 委員 乗込み調査は4月に1度でよろしいですか。
- 事務局 今回は一週間すべての便に乗り込むという方式をとりましたが、地域によってやり方は様々だと思います。例えば聞き取りではなく、利用者に調査票を持ち帰っていただいて次に乗るときに車内で箱へ入れてもらうなど、各路線で工夫していただければと思います。ただ、それだと満足度など数字だけでは表れない部分も聞き取ってもらう機会がないので、こういった接触をした調査が必要になってきますので、そういうところは各路線で知恵を絞ってもらいたいと思っております。
- 委員 平成27年度に同じことをやったと思いますが、その時と同じものですか。
- 事務局 経年変化も見ていきたいので、ベースは同じですが、今回増やしたのは満足度の項目、自宅からバス停までの距離と時間を加えさせていただきました。さらに、はたっこ号のワークショップにご参加していただけるか、一緒にバスを盛り上げるのに関心があるかといったところも増やしています。
- 委員 項目を絞ってもらった方がいいと思います。みどり号は一周21分の短いバス路線で、一人ひとりこれだけの項目を聞いていくと間に合いません。項目が多すぎますので、考え直していただきたいと思っております。
- 事務局 実際乗込み調査を実施している中で、1日に何回も乗る方には何回も同じことを聞くことになってしまいます。ご協力いただいているのですが、お渡ししておいて最後に回収するなど、もう少しいい方法を考えていきたいと思っております。やり方はバスの路線延長とうによってそれぞれで考えていくしかないと思っておりますので、ご一緒に考えさせていただければと思います。

会 長 工夫をしてよろしくお願ひします。それでは、乗込み調査実施の件についてはよろしいでしょうか。

・コミュニティバス停留所の共通仕様について

(事務局より資料をもとに説明)

会 長 このようにコミュニティバスが複数乗り入れているところで、停留所標示が分かりにくくなっているのてこういう方向で調整していけばどうかという提案です。当然それはいいことですので、標示の案について行政の方から提案いただいて、お話しさせてもらうということてよろしいですか。

事務局 現在、事業推進部会において、分かりやすい情報の提供により利用促進を図る取組を進めていただいております。11月30日に公共交通会議がございますが、その席で事業推進部会からこの件が報告されますので、ご承知いただければと思います。この共通仕様ができればすぐにこういったもの全て整えるのかということ、そういうことではございません。乗換の拠点である駅や市役所等においては、利用者の方が見やすいように随時可能なところから替えていければと思います。実際写真を見ていただきますと、時刻表と言いましても、縦書き、横書きがあつたり、見比べたり乗換ができるのかどうかといったところがわかりにくい状況です。まずはできるところから改めていこうということで、事業推進部会で検討いただいているところてございます。いずれそういった提案が出てまいりますので、よろしくお願ひたいと思います。

会 長 はい、ありがとうございます。これはやるとしたら費用がそれなりにかかると思いますが、それはとれるのですか。

事務局 基本的には、表示板を作り替える際には、こういった共通仕様に基づいた最低限載せるべき情報は載せていただきたいと思ひます。将来的には、乗換拠点にはもう少し大きな総合的な案内板を設置したいと思ひますが、それぞれ皆さんの費用の持ち分、費用の出し方についても考えていきたいと思ひます。例えば、ゼロ予算で、広告収入をもって作り上げるなどの方法についても引き続き研究していきたいと思ひます。

会 長 はい、そういう方向でいってはどうかという、事業推進部会からの提案てございました。ありがとうございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、議事は一通り終了いたしました。その他何かございせんか。無いようでしたら、閉会させていただきます。本日はありがとうございます。